

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 長嶋 萌嘉
所属 現代システム科学域 環境システム学類
学年 第三学年
留学先 華東理工大学
留学期間 (study abroad period)
2019/9/2~2020/1/3 (1学期間)
記入日 (Date) 2020/2/4

交換留学とは … 本学に在学扱いのまま海外協定大学に留学できる制度です。留学中は本学に学費を納入し、留学先大学の授業料は免除されます。

留学レポート Study Abroad Report

2020年9月より、大阪府立大学の交換留学制度を利用して中国・上海の華東理工大学に留学をしました。

<授業、クラス>

私はこの1学期間、留学生向けの語学授業を受講しました。語学クラスは1番初級のAクラスから上級のDクラスまでの4つのレベルに分かれており、HSKの取得状況や簡単なその場での会話などを通して自身のクラスが決定されます。(授業開始後1週間程度はクラス変更の申し出が可能です)

私はCクラスで授業を受けました。授業は平日午前のみで、総合(総合内容)の授業と、曜日ごとに听力(聞き取り、週1)、阅读(読解、週1)、写作(作文、週1)、口语(会話、週2)の授業がそれぞれ設定されています。Bクラスからは授業はすべて中国語で行われ、慣れないうちは先生の話すことが聞き取れない時もありますが、慣れてくれば受講に支障が出るようなことはありませんでしたし、先生は質問に必ず応じてくれます。個人的には各担当の先生によって授業の進め方や雰囲気にはばらつきがあると感じましたが、必ず自分の能力を上げられる環境になっています。中国人の先生に教えてもらうことで、同意語の多い中国語におけるそれぞれの微妙なニュアンスの違いなど、独学で本をひらいて勉強するのでは身に着けにくいことまで学べるので、語学能力の向上において得るものはたくさんあると思います。また、授業内で中国の文化・伝統や、辞書などに載らない流行言葉などについても詳しく触れるので、語学面でなく幅広い視点で中国について学ぶことができます。また、個人的には口语の授業が特に印象強いです。週ごとにさまざまなテーマが設定され、それについて自分や自国の考えを中国語で発表するのですが、すべての学生に必ず発言の機会があるので、筆記の内容とは違った実践的な能力を確実に身に着けられますし、中国はもちろん、様々な国と文化を知ることができるので非常に貴重な授業だったと思います。

Cクラスでは特別授業態度が悪いなどということもなく、またグループ課題などもあるので様々な国籍、年齢の人々と交流のできる環境でした。

<寮、設備>

私は留学生専用の寮に住んでいました。一人部屋で、机やベッド、棚、冷蔵庫、エアコンなどの基本的な家具とトイレ、シャワーが備えられており、キッチンや洗濯機は共用スペースにあります。私の部屋には特に問題はありませんでしたが、他の学生の部屋では前の学生の使用状況によって差があり、家具に不備があったり部屋に虫が出たりすることがあったようです。家具の不備に関しては交換などの対応を必ずしてくれるというわけではないようで、冷蔵庫なしで過ごしていた学生もいました。自分の前に住んでいた学生によるので運に左右されるという状況になりますが、そのような部屋になった場合は根気強く対応を求めるか、自分で家具を準備するかという覚悟をしておいたほうがいいと思います。部屋の設備自体は不便なものではなく、十分に過ごしやすい寮です。また、どの大学でも寮生活では隣部屋の騒音などの問題がありますが、私は睡眠に支障が出るほどではなかったですし、あまりにも迷惑な場合は学校に相談すればもちろん取り合ってくれます。華東理工大学の設備は豊富で利用し易い良い環境でした。食堂は複数あり、特に一番大きな食堂には日本風や韓国風の食事を扱う店、またスイーツ店やタピオカの店などもあります。そのほかにも留学生寮からすぐの場所に屋台やコンビニ、スーパーなどを含んだ商店の連なるエリアがあるので食事や買い物もとても便利でした。またジムや複数のスポーツコートもあるので運動も十分にできます。4階建ての図書館には各階に自習スペースがあり、またWechatアプリを使った席の予約システムを利用するので授業外での自習にも大変いい環境でした。

立地も良く、キャンパスの北側にショッピングモールや店の集まったエリアがありますし、駅までは徒歩15分ほどですがそれほど遠い距離ではなくバスもあるので、上海の都市部に遊びに行くにも便利な環境です。

<授業外の生活、思い出>

私は親戚が何人か上海で生活しているため、午後や週末は親戚と出かけることが多かったです。上海の印象としては、やはり非常に栄えており、地下鉄のどの駅で降りても百貨店ほどの規模の大きなショッピングモールやそれを中心とした歩行街が見られるので街を探索するのがとても楽しいです。観光スポットなどではない普通の街中でも思わず写真を撮ってしまいたくなるような街並みがたくさん見られました。特に夜の景観は本当に素敵で、夜の外灘や南京街はぜひ訪れてほしいです。



親戚以外とは、同じ日本人の子はもちろん、様々な国籍のクラスメートの女の子数人でご飯を食べにいたり、留学に来てこそ出会えた人々とたくさんの楽しい時間を過ごすことができました。出身地も年齢も違う人々とかかわる体験は今までの私にはなく、とても新鮮で素敵な時間でした。

中国生活では、特に買い物はとても便利です。中国ではクレジットカードをアプリに連携して支払うキャッシュレス決済が主流なので、現金を持ち歩く必要がありません。QRコードをかざすだけで支払いが完了するのでとても早く簡単で、レジの混雑などありません。買い物に出掛ける際は携帯一つさえあれば出来るのです。また、同時に中国生活で主流なのが外食です。日本で徐々に使われはじめているUberEatsと同等のサービスなのですが、中国ではすでに多くの人のライフスタイルとして浸透しています。豊富なメニューの中から簡単に注文することができ、注文する店によっては割引によって非常に安い場合もあります。なんといっても注文してから指定場所に届くまで平均30分程と迅速なサービスで、支払いなどもアプリで済ませているため受け取りの際に何も手続きはらず、ただ単に受け取るだけで非常に便利です。また外食の同アプリ内には、調理済み食品だけでなく、野菜、果物や海鮮などの食材、日用品などの宅配サービスも展開されているので、言ってしまうと、まったく外から出ないで生活することも上海では可能です。それほど身近で便利なオンラインサービスが上海では生活内の常識として利用されています。

上海の街の人々は、やはり声が大きかったりせっかちな人も多く、日本人の感覚でいえば受け入れやすい環境ではないかもしれませんが、ただ慣れてしまえば特に不快に思うようなこともなく、それに若い世代に関してはそのような印象はありませんでした。また、上海の人々は知らない人にも親戚や友人のようなフレンドリーな接し方をする人が多いです。それがあまり得意ではない方もいるかもしれませんが、街中で困ったときに手助けをもらったことは何度もありますし、買い物の際におまけをつけてくれたり、業務以外の雑談をしたり、コミュニケーションがとりやすく馴染みやすい街の雰囲気を実際に感じました。日本での生活やニュースではわからない上海の一面だと思います。

<留学を考えている方へ>

中国の留学生活においては「慣れ」が一番大事だと思います。日本に比べて中国はやはり文化が合わなかったり、適当さを感じる人が多いです。大学のシステムや対応でも理不尽に感じることもあるかもしれませんが、ただ、そこで引き下がる必要はなく同じように堂々としていけばいいので、大学内でもそうですが、理不尽に自分が損をするような場面に出会った場合は体裁を気にせずしっかりと自分の意見を主張すべきです。私も慣れてからは、自分がこの留学という限られた時間で損をしないにはっきりしないことは何度も中国の大学の先生に確認したり、大阪府立大学の国際交流課の先生方にも協力をしていただきました。言葉の不自由な環境で一人で暮らすにあたって、すべてが順風満帆に進むほうが珍しいです。困ったときは、助けてもらっているという意識をしっかりと持った上で、自分のために、頼れる人々をしっかりと頼るべきだと思います。

留学というのはなかなか大きな決断で、お金や時間を消費するものですし、挑戦する分トラブルやストレスは避けられません。私は自分の意志で中国への理解をもっと深めたいと思い、中国留学を選択しました。ですが、個人的な中国へのイメージから私の中国留学についてあまり気持ちの良くない言い方をしてくる人もいましたし、留学を楽しそう、羨ましいと言われ違和感を感じたりすることも何度もありました。ですが、留学を終えた今そのようなことが本当に何ともなく思えるほど、私はこの留学と、留学を選んだ自分を誇りに思っています。身に着けた語学力やクラスでとった成績、それにおいてしっかりと努力できた自分、日本では得られなかった、中国で出会った人々と彼らの価値観、そしてこれからさらに達成していきたい課題、すべてが私の糧となっています。自分の目的を見失わず、正しい努力さえできれば、留学は大きな意味を持つ経験となります。留学への不安から躊躇している人がいるならば、ぜひ留学することをお勧めしたいです。

このレポートが留学をする、また留学を考えている皆さんの力となれば幸いです。